未来構想PF
プラットフォーム通信
第１１５号
2023年（令和5年）6月15日発行
（一社）未来のまち・交通・鉄道を構想するプラットフォーム

CONTENTS

PF Topics 1
プラットフォーム活動の平準化と更なる活動の展開
（第13回通常総会）

VOICE 2
こんなところに鉄道遺構
ＪＲ東日本コンサルタンツ㈱　梅原　隼

たすきリレー 3
クイックアクション・クイックレスポンスと災害時の初動
ＪＲ東日本コンサルタンツ㈱　古山　章一

国際データ比較 4

ＰＦ書店／私のインフラ巡礼／編集後記 5

私のインフラ巡礼

～信越本線横川・軽井沢間廃線遺構群～
最急こう配66.7‰を数える国鉄・JRを通じた日本一の勾配区間（ジェイアール東日本都市開発大口豊さん）

未来構想PFのホームページ（HP）をご覧ください。

会員はもちろん社会に大きく開かれた「参加型」HPです。

未来構想ＰＦ　検索

で検索してください。

トップページへのリンクは
こちら

PF Topics

プラットフォーム活動の平準化と更なる活動の展開
（第１３回通常総会）

去る６月７日に（一社）未来のまち・交通・鉄道を構想するプラットフォーム第１３回通常総会が開催されました。

当期においては2020年春から始まった新型コロナウイルスの感染がようやく低下の傾向になり、ポストコロナ期、平常化への動きが趨勢となり、多くの社会経済活動が回復に向かっています。このような中、発足から12年目に入った本会においては、新しい執行体制に移行して２年目を迎え、各種行事の復活、平常化に向けての活動に取り組むこととし、調査研究ワークショップや見学会、技術講演会の開催、受託研究の再開などを実施し、成果を挙げてきました。

2023 年度は更に種々の制約が解消されていく中で、今期は活動の平常化を回復する年という認識のもと、昨年度から継続する「調査研究ワークショップ（WS）」の取り纏めを始めとして、新たなテーマ設定やメンバー構成、進め方等の検討を深度化させた「調査研究ワークショップ（WS）」、若手技術者を対象とした２年ぶりとなる「駅まち未来構想研修」、昨年の品川プロジェクトに続く「視察・見学会」、法人会員や賛助会員も気軽に参加できる「技術講演会・セミナー・パネルディスカッション」などの取り組みを行っていく予定です（取り組みの内容はタイムリーにＰＦ通信にて情報発信してまいります）。

VOICE

こんなところに鉄道遺構

ＪＲ東日本コンサルタンツ㈱　梅原　隼

1872年（明治5年）の鉄道開業以来、横浜の街は何かと鉄道と所縁の深い歴史を歩んできました。横浜市はその歴史的背景を鑑みて、役目を終えた鉄道構造物を積極的にまちづくりに生かす考えを持っており、街のあちらこちらで鉄道遺構と言えるものを見ることができます。市の中心部、とりわけ観光地とされる臨海部では、こうした鉄道遺構がとても綺麗に整備されており、案内板やガイドブック等でその所以が解説されています。しかし、中にはさりげなく残され、周囲に何の解説も無い遺構があることもあり、「こんなところに！？」と思わず驚いてしまうこともあります。ここでは、私が個人的に驚いてしまった鉄道遺構についていくつかご紹介をしたいと思います。

①赤レンガ倉庫にレールと車止め

赤レンガ倉庫は現在では言わずと知れた観光施設であり、旧貨物線を転用した汽車道や旧横浜港駅が鉄道遺構として有名ですが、ここにさりげなく残されている遺構があります。それは公園内を歩いていると唐突に現れる、小さなレールと車止めです（写真❶）。周囲には何の解説板も無く、ガイドブックでもこれに関する記述を見かけたことはありません。初めて見たときには「何これ？」と思ってしまいました。赤レンガ倉庫のある新港ふ頭は元々物流施設として使用されており、その時の記録によると、ふ頭内での荷捌きにトロのような運搬台車が使われていたとあります。このレールと車止めは、その大きさから恐らく運搬台車のためのものと思われます。

②山下公園の踏切跡

代表的な観光スポットである山下公園、その南側に隣接した場所に、これもまたさりげなく踏切跡が存在しています（写真❷）。山下公園のすぐ横ですが、観光客の主要な動線からは外れているため、多くの人はこれを目にすることは無いと思われます。過去の記録によると、現在遊歩道となっている汽車道や山下臨港線等の旧貨物線は、山下ふ頭までつながっていたようで、この踏切跡はその一部であると思われます。

写真❶ 赤レンガ倉庫付近に残る小さなレールと車止め

写真❷ 山下公園横の旧貨物線踏切跡

③横浜市電の遺構

かつて横浜市中心部には市電が運行されており、全盛期には路線延長が約52kmにも及んだそうです。モータリゼーションの影響から1972年（昭和47年）に全廃となり、現在ではその面影を見ることはほとんどできませんが、いくつかの遺構が残っています。

元町商店街からほど近く、本牧通りが山手の丘を貫く山手トンネルがあります。山手トンネルは方向別に２本のトンネルがありますが、このうち本牧方面へ向かうトンネルはかつて横浜市電が使用していたものを道路に転用したものです（写真❸）。なお、これについては多くの記録が残っていて容易に調べることができます。しかしながら、知らずに通っていたトンネルが市電のものだったと知った時には、なかなかの驚きでした。

もう一つ、これは遺構と呼んで良いものかわかりませんが、個人的に見つけたものです。根岸線石川町駅から徒歩約10分の山元町はかつて市電の終点があった場所です。市電の電停跡は現在バス停になっていますが、その面影はあまりありません（写真❹）。そのバス停からほど近くの道路脇にレールを再利用したと思われる何かが埋められています（写真❺）。

写真❸ 本牧通りの山手トンネル（旧横浜市電のトンネルを転用したもの）

このレールが市電のものかどうかは定かではありませんが、その立地から「何か関係があるのでは？」と想像してしまいます。

写真❹ 現在の山元町バス停付近

写真❺ 道路脇に埋められたレール

街中にさりげなく残る鉄道遺構。その現役当時の姿や役割を想像すると興味が尽きません。今後も街を歩く際には「何か面白いものがないか」と探してみたいと思っています。是非皆様も身近な街中に残る鉄道遺構を探してみてはいかがでしょうか。

たすきリレー

クイックアクション・クイックレスポンスと災害時の初動

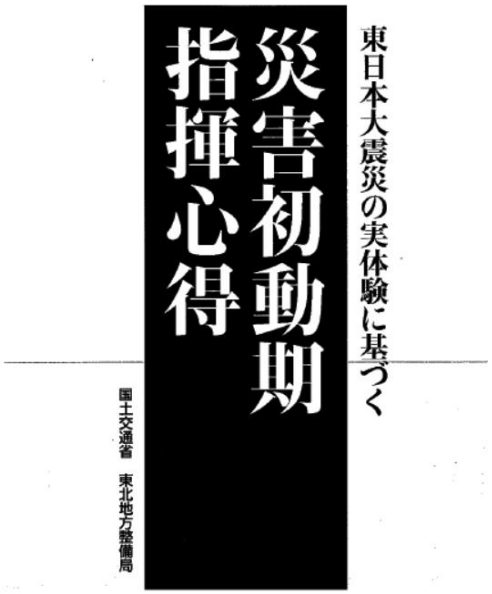
ＪＲ東日本コンサルタンツ㈱　古山章一

クイックアクション・クイックレスポンス、この言葉を初めて耳にしたのはＪＲ東北工事事務所のＭ元所長が月初めの朝礼でお話しされた時です。拝聴後、レスポンスを確認のため辞書でひき、反応、応答、対応、返事という意味であるが、責任・責務を伴うものであると理解した記憶があります。また、クイックレスポンスは製造業における経営方法であり、売上の情報をもとに製造から納品までを素早く行うものだと分かりました。クイックレスポンス、素早い反応は相手への思いやりであり他者への貢献、自分にとっては宿題・課題を残すことがないというメリットがあり、ひいては自身への貢献となるとのことです。

このレスポンスという言葉に関連し、災害時における初動対応・初動体制があります。ここで、自分の地震体験はどうなのか、ものごころついてからを表❶（次頁参照）にまとめてみました。1978年（昭和53年）宮城県沖地震から今年で45年ですが、体験記録に記したように若い時のほろ苦い体験があります。深夜や休日に非常参集し、安否確認・情報収集を行い被害調査に行った記憶が多々あります。

初動の話に戻ります。東日本大震災の際、櫛の歯作戦で有名となった国土交通省 東北地方整備局でまとめられた、東日本大震災の実体験に基づく「災害初動期指揮心得※」（写真❶）という冊子があります。裏表紙には「備えていたことしか、役には立たなかった。備えていただけでは、十分ではなかった。」と。そして本の最後には過去の教訓に精通した上で、これを超越し、自由自在に「応用」してこそ、将来の大災害に対応できるとあります。「応用」にあっては「想像力」を働かせ、「知恵（考える力）」を出すことが大切だと思います。この冊子は今でもすぐ取り出せるよう、ＪＲ東日本の地震時構造物調査用資料とともに机の中に置いてあります。

※（一社）東北地域づくり協会で実費（1冊350円）にて販売



写真❶　災害初動期指揮心得

表❶　地震体験一覧

震央地・地震名	年月日	規模	体験場所	所属対応等
新潟地震	昭和39年6月16日	M7.5 震度5	宮城県大河原町	・小学5年、昼休み小学校の校庭で
1978年宮城県沖地震	昭和53年6月12日	M7.4 震度5	宮城県大河原町	・国鉄仙台新幹線工事局 大河原工事区 机の下にもぐりこむ ・2月20日の地震時は東北新幹線高架橋橋台構築のための仮土留（自分で設計）の地表下15mの床付け。崩壊したら自業自得と思いながら、中間杭にしがみつく
平成6年（1994年）三陸はるか沖地震	平成6年12月28日	M7.6 震度６	仙台市	・JR東北工事事務所 東北本線八戸・陸奥市川間盛土崩壊の復旧支援
平成7年（1995年）兵庫県南部地震	平成7年1月17日	M7.3 震度7	仙台市	・JR東北工事事務所 3月上旬に山陽新幹線の被災現場調査
宮城県沖	平成15年5月26日	M7.1 震度6弱	仙台市	・JR東北工事事務所 東北新幹線一ノ関・新花巻間被害調査
宮城県中部	平成15年7月26日	M6.4 震度6強	仙台市	・JR東北工事事務所 深夜・朝・夕方の3回非常参集
平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震	平成20年6月14日	M7.2 震度6強	仙台市	・JR東北工事事務所 非常参集
岩手県沿岸北部	平成20年7月24日	M6.8 震度6弱	仙台市	・JR東北工事事務所 非常参集
平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震	平成23年3月11日	M9.0 震度7	新宿	・JRC技術第二部　JR東京工事事務所B1でしゅん功検査時、地下壁にビシッとクラックが入るのを目と耳で体験　3月17日～23日JR水戸支社要請により常磐線、水戸線の被害調査
福島県沖	令和3年2月13日	M7.3 震度6強	仙台市	・JRC東北支店　非常参集
福島県沖	令和4年3月16日	M7.4 震度6強	仙台市	・JRC東北支店　非常参集　東北新幹線白石蔵王付近の被害調査、阿武隈急行の被害調査・復旧支援（原状復旧設計）

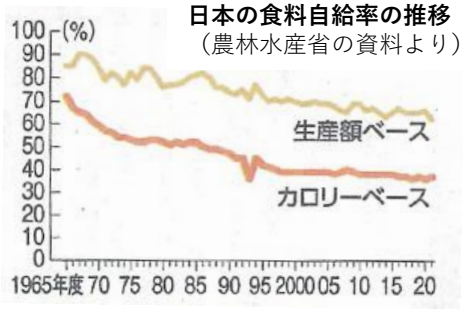
今月の国際比較データ

●主要国の食料自給率

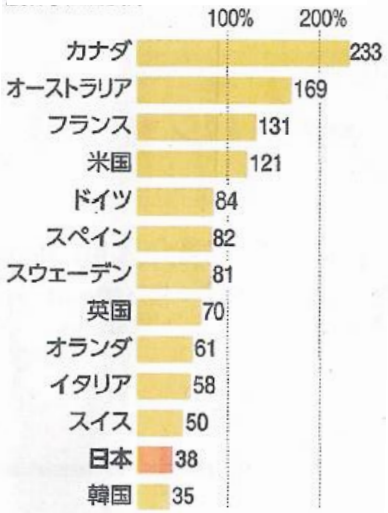
日本の食料自給率（カロリーベース）は38％と先進国で最低水準です。ロシアのウクライナ侵攻で食料の安定供給が不安となり、軍備増強と並んで食料安全保障という言葉が重みを増しています。日本の食料自給率は年々減り続けており、あわせて自給できている農産物を作るために必要な肥料も輸入に依存しています。

政府は、紛争のような事態の他、気候変動による凶作、感染症のパンデミック等に対応する法律（農産物の増産を農家や民間事業者に命令できるなどを含む）の制定を準備しています。

日本の食料自給率の推移
（農林水産省の資料より）



主要国の食料自給率
（2019年。カロリーベース。農林水産省試算）



PF 書店

本の題名をクイックすると、出版社の書籍紹介ＨＰにリンクします！

①ＡＩ２０４１（カイフー・リー、チェン・チウファン著　文藝春秋）

創業社長のカイフー・リーとSF作家に転身したチェン・チウファンが、AIの未来を10のテーマに沿って小説と解説で描き出すガイドブックが今回紹介する「AI 2041」。収録された作品はどれもAIが産む豊かさと光の届かない暗部の両方を行き来しながら、配信ドラマを思わせるスピード感あふれた文体で描く現代SFの傑作ぞろいとなっている。シンギュラリティは2045年と言われている中、なぜ2041年なのか？と思って読み進めたところ、単に執筆した2021年から20年後という理由であった。

② シュリーマンと八王子（伊藤 貴雄著　第三文明社）

「トロイ遺跡」の発掘で知られるドイツの考古学者ハインリッヒ・シュリーマンが、幕末の桑都・八王子を訪問した際につけた日記を大学教授が翻訳した一冊。住民たちと交流した時の様子や当時の建築物などについて触れられ、かつての八王子の街の様子が垣間見える内容となっている（八王子の滞在時間はなんと４時間）。この本を偶然にも横浜線の車内で読み、シュリーマン一行が過去に横浜⇔八王子をほぼ同じ道をたどった現実をロマンに感じたひとときであった。

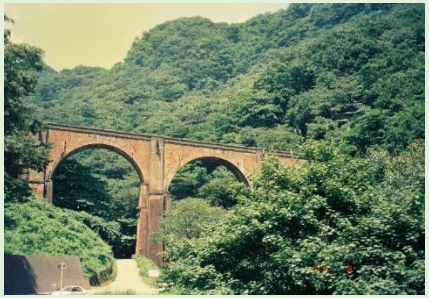
③ 文豪、社長になる（門井 慶喜著　文藝春秋）

個人的に大好きな作家・門井慶喜。本作はベストセラー作家にして文藝春秋創業者・菊池寛を主人公とした歴史小説。作家に憧れた四国の少年が、いかにしてベストセラー作家となり、文藝春秋を創ったのか。稀有な文化人であり、実業家であった男の一生を、膨大な資料と確かな取材により見事に描き切っている。直木三十五や芥川龍之介ら、著名な作家たちも登場。友情物語としての側面に心打たれること必至である。

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。
連絡先：未来構想 PF 事務局 大口
電話：03-4334-8157　　メール：info@miraikoso.or.jp
〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28

私のインフラ巡礼

「信越本線横川・軽井沢間廃線遺構群」（群馬県松井田町 他）


旧線碓氷第三橋りょう

丸山変電所跡

信越本線横川・軽井沢間は駅間営業キロ11.2Kmを通過する間に約550mにも及ぶ高低差を登降し、最急こう配66.7‰を数える国鉄・JRを通じて日本一の勾配区間でした。

1893年の開業時からアプト式で運転され、著しい老朽化と輸送力の限界に来ていた同区間の鉄道施設は、1963年には殆どの区間を別線で複線化のうえ専用機関車を連結しての粘着運転方式に変更し、首都圏と長野県地方を結ぶ都市間輸送を中心に役割を果たしてきましたが、1997年の北陸新幹線高崎・長野間開業時に並行在来線の一部である同区間は廃止されました。

専用機関車の基地であった横川機関区をはじめとした鉄道施設は地元松井田町に譲渡され、機関区跡地には当時の車庫等を再活用した「碓氷峠鉄道文化むら」が設置されたほか、廃線敷の一部は遊歩道として整備され、かつての大幹線の様子を偲ぶことができます。

（ジェイアール東日本都市開発　大口 豊さん）

編集後記

６月に入り、本格的な梅雨のシーズンとなりました。今年は季節外れの台風襲来により日本各地で河川氾濫や浸水被害が発生しました。近年はゲリラ豪雨や線状降水帯による自然災害が多発しています。これを期にハザードマップや避難所・避難経路の確認をしてみてはいかがでしょうか？備えあれば憂いなしです。（T.E）